

宇都宮市立豊郷中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

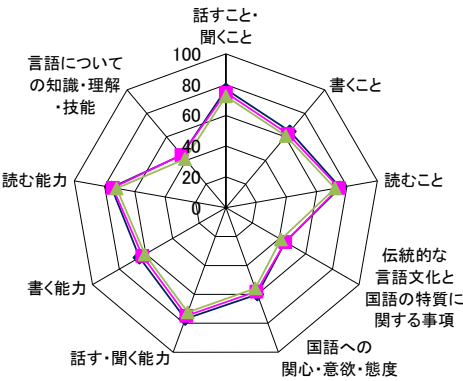
★本年度の国、市と本校の状況

【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	79.2	77.6	75.4
	書くこと	87.7	87.3	85.7
	読むこと	75.5	75.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.7	76.6	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	79.2	77.6	75.4
	書く能力	87.7	87.3	85.7
	読む能力	75.5	75.6	73.8
	言語についての知識・理解・技能	77.7	76.6	77.2

【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.0	74.8	72.4
	書くこと	64.8	62.6	60.8
	読むこと	75.5	74.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	44.6	44.7	41.4
観点	国語への関心・意欲・態度	60.0	58.0	55.9
	話す・聞く能力	77.0	74.8	72.4
	書く能力	64.8	62.6	60.8
	読む能力	75.5	74.6	72.1
	言語についての知識・理解・技能	44.6	44.7	41.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国や市と比べると本校の正答率は全ての問いで高かった。国や市よりも5ポイント以上高い出題項目もあり、話すこと・聞くことの理解は高いことがわかる。特に「目的に応じて資料を効果的に生かして話す」問題では、約94%の生徒が正解していた。これは、中学校の取り組みだけでなく、各小学校での取り組みや各家庭での生活も大きく関係していると思われる。	・知識の分野では80ポイントを超える正答率であったが、活用の分野では70ポイントを切る正答率もあったため、知識だけでなく日常生活でも使えるよう、普段の言葉遣いや会話に注意しながら指導していきたい。 ・地域の連携を密にして、今後も生徒の学習意欲の向上に努めたい。
書くこと	○市と比べると本校の正答率は若干高かった。市に比べて、活用の分野では4ポイント高い。特に「文章の構成を意識してわかりやすく書く」問題では市と比べて5ポイント高かった。 ●生徒の個人差も大きく、書くことを苦手としている生徒も多い。また、自分の考えを書くことが得意でない生徒も多い。	・普段から書く作業を授業に多く行い、書くことに対する抵抗を少なくしたい。 ・個別指導やグループ活動を通して、書くことに慣れ親しませたり、生徒間の人間関係を良好なものとし、誰にでも自分の意見を言える状況を作ったりしながら、自信を持って自分の考えを出せる環境作りを心掛けたい。
読むこと	○市と比べると本校の正答率は1ポイント程度高かった。特に「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」問題では市と比べて8ポイント近く高かった。 ●「文章の要旨を捉える」問題では市の平均を1ポイント程下回っていた。説明文の読解については個人差が大きく見られ、発展的な問題では正答率が低くなる傾向がある。	・説明文では繰り返し出てくる言葉や接続表現などに着目し、文章を正確に読み取る力を身につけさせたい。 ・小説などでは、直接的な表現だけでなく、行動や情景、行間から登場人物の心情を読み取る活動を多く取り入れたい。 ・言葉の学習を通して、国語で身に付いた力が多くの場面で活用できる話題を多く取り入れ、知識に偏らない活動にしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●漢字の読み・書きの問題は、国や市の平均と同程度の正答率であった。しかし、語句の意味を問う問題では、市の平均を1ポイント程度下回った項目もあった。 ●楷書と行書の違いを理解する問題では、市の平均を5ポイント以上下回った。	・生徒個人の興味関心によって語彙力の差が大きく、また、生活環境によって理解している語彙力の偏りが見られる。割と読書への興味や習慣付けができていことから、他分野への興味を広げ幅広い知識を養えるような働きかけを行いたい。 ・漢字については繰り返しが必要なため、小テストの実施や定期テストへの意欲付けを行いたい。 ・書写指導の時間をいっそう充実させ、楷書や行書の理解を深めさせたい。